

## 島根原発点検もれ問題について

2010.7月議会

石橋佳枝

島根原発で点検もれが 511 箇所もあったという問題で、市民から驚きと不安を超えて恐怖を感じるという声があがっています。

中電はこれまでも活断層の問題でも、最初はないと言っていた存在を認め、長さについても 8 キロ、10 キロ、08 年には 22 キロと修正を重ねており、また 3 年前の記録改ざん問題、そして今回の「点検もれ」511 か所、点検もれに繋がるおそれのある点検実績の記載の誤り 1159 か所と、「点検」とは名ばかりの実態が明らかになりました。

この「安全」にたいしての無責任な態度、原子力という危険なものを扱う仕事に携わっているという意識の欠如が、たびたび問題を起こしてきた原因ではないでしょうか。市長どうお考えでしょうか。

そして、先日全協で行われた中電の説明を聞いても、この中電の姿勢に不信感が拭えない、これは私だけではなく大方の皆さんの思いではないでしょうか。

米子市は島根原発から 17 キロの距離にあり、一旦事故がおこれば大変な被害をうけます。(神戸大学都市安全研究センターの石橋克彦教授は、「もし島根原発が地震で破壊されれば、兵庫県までは壊滅的な被害を受ける危険がある」といわれています。)しかし、鳥取県の住民説明会の求めにも、全協での米子市民への説明会の求めにたいしても、中電は応じません。しかし安全・保安院の 4 回の調査結果を、米子市議会のみならず、市民へ説明するよう強力にもとめるべきではないか、市民への説明会もなく操業を再開することに断固反対を表明されることを求めます。

市民のいのち・財産に係る重大な問題です。市民説明会を経た後に、島根原発の操業を認めるか否かを市民に問うべきではないでしょうか。

また原子力発電を推進する立場の経済産業省の機関である安全・保安院の調査だけでなく、第三者機関による調査をするよう国に要請すべきと考えますが、市長の答弁を求めます。

最後に、プルサーマル計画について、今回の事態を踏まえ改めて中止を求めべきではないでしょうか。プルトニウムはウランの何万倍も放射能が強く、ごく微量でもガン発生の原因となる危険な物質です。国はこの推進に「住民合意が前提」といっていますが、一部の住民だけでなく、島根・鳥取両県の声を聞くよう国に指導を求めることが大事と考えます。

以上市長の答弁を求めます。